

The International Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies 報告書

岡崎咲弥 (東京大学)

この度コロンビア大学・早稲田大学共催のワークショップに参加させていただき、自分自身の専門の研究を深めることにおいても、視野を広げることにおいても豊かな経験をすることができました。

まず、日本と英語圏で研究の仕方に大きな違いがあることを教えていただき、実践する場となったことは、大きな収穫でした。同じ日本の作品を対象としていても、アメリカでは方法論が明確に意識され、求められる抽象度も高いです。はじめは戸惑いでしたが、学生同士の顔合わせの場を用意して頂いたり、学生同士も自主的に交流したりして留学生から話を聞くこともでき、自分でも調べてみて徐々に理解が深まりました。私は近世前期の洛中洛外図を取り上げ、その場面比定について発表を行いました。英語での15分間の発表ということで、作家論か、図像比較か、どのアプローチから話をするのが効果的であるかを、先生方のご指導の元で考え直しました。今回学んだことは、英語での発表に限らず、今後どう対象を腑分けし、なにを目指すのか、自分の研究の取り組み方を見つめ直すよいきっかけになりました。

当日のシンポジウムでは、学生の発表はすべて英語で行われましたが、日本語と英語の二カ国語が公用語として設定されていました。こうした場に立つのは新鮮であり、それぞれの発表には両方の言語の話者にわかりやすいような工夫が施されていて興味深かったです。また、発表を通じて自分の研究とつながるテーマに取り組んでいる他大学の学生に出会えたことは嬉しいことでした。今後も研究での交流を続けていきたいと思っています。反対にシンポジウム後の夕食では、他の分野を専攻しているコロンビア大学の学生とも会話を楽しみました。普段学んでいるところとは時代も分野も異なる専門の人々と話す機会に恵まれたことを喜ぶと同時に、幅広く興味を持ち、コミュニケーションツールとしての教養を身につける重要性を改めて実感しました。

私はこれまで海外で過ごした経験はわずかでしたが、今回のワークショップに参加したことで、都市の空気や人々の性格の違いを体感し、公園・スーパー・美術館等の施設を実際に利用して、一人の学生として経験値をあげることができました。

発表と経験の場をご準備くださった早稲田大学・コロンビア大学の先生方、事務の方々、学生の皆様に感謝申し上げます。